

公益社団法人日本看護科学学会2024年12月社員総会 議事録

日 時：2024年12月6日（金）17：00～18：40

場 所：市民会館シアーズホーム夢ホール内2階大会議室

総社員数：340名

出席社員数：296名（当日出席47名、委任状・議決権行使249名）

出席理事・監事：吉沢豊予子（理事長）、西村ユミ（副理事長）

（うち11人社員） 有森直子、池田真理、大久保暢子、萱間真美、鎌倉やよい、グレッグ美鈴、田口敦子、
仲上豪二郎、山川みやえ、山本則子、吉永尚紀、
井部俊子（監事）、数間恵子（監事）（以上 50 音順）

議 長：吉沢豊予子理事長

配布資料：12月社員総会議案書（議事次第）

議事録作成：伊山聡子（熊本保健科学大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）

I.開 会

・司会：西村ユミ副理事長

・出席者数：47名（うち理事と監事は13名）、有効委任状：249名

日本看護科学学会定款第23条および24条を満たし、12月社員総会の開催が報告された。

II.理事長挨拶

吉沢豊予子理事長より挨拶があった。

理事会発足後、1年半が経過しました。これまでを振り返ると地道に足固めしてきたと思う。2025年度の予算は後に説明があるが、赤字予算でのスタートとなる。会員数は、これまで増え続け1万人になっているが、今後は横這いもしくは微増と予測している。年会費の大幅な収入は見込めないため今後、新たな事業の立ちあげは難しくなってくると想定されるがJANSは様々な学会の模範であるべきである。現在進行中の事業の更なる発展が求められるなか「若手研究者育成」が重要な課題であり、財源的アプローチを含め知恵を絞る必要があるだろう。

一方、6月の社員総会で承認された「学生会員」が来年1月から発足する。将来の学会員となる種まきであり、今の中高生が将来、看護研究者の道もあることに気づいてもらえるためにも事業の活発化が必要である。

世界ではオープンサイエンス化が進み、様々な知のオープンアクセス化が加速化しているため、英文誌のJJNSをその波に乗せる必要がある。早急に検討を始める段階にあり、財源の確保、課題と共に期限を決めて進めていきたい。

昨年JANAとの合同講演会で話した看護学のシチズンサイエンス：市民をどう巻き込むかについて、「看護は専門職のみが提供するもの」という考えに、市民が私事として関わるができるか、看護をもっと意図的に市民のものにしたいという思いを貫いてきた。11月末、ケアサイエンスの分科会が開催した「私事としてのケア：家族でも専門家だけでなく」のシンポジウムから、JANSの考えは間違っていないと考えている。来年4月にJANSのHPがリニューアルされ「一般の皆さま」という窓口を開設予定であり、JANSが市民に近づき、看護に興味を持つ方が増えると期待している。

充実した看護科学の発展のためにさらに活動しようとしている。本日の総会での各委員会の報告や審議事項についても忌憚のない意見を賜りたい。

Ⅲ.第44回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

第44回学術集会会長の前田ひとみ先生（熊本大学・熊本保健科学大学）より以下の挨拶があった。本学術集会では、格差が生じている格差社会に看護科学がどう貢献できるか、大きなテーマである。「格差社会への看護科学の挑戦」ということで、理事長の話のように市民を巻き込み、いかに看護を発展させるか、一緒に考えていければと思っている。

学術集会で企画した特別・教育公演、シンポジウムに合わせ、JANAおよび委員会とのシンポジウム、市民公開講座も予定している。市民公開講座には多くの来場をいただきたく、ラジオや地方誌、コミュニティ誌にも広告を掲載し、市民の方へ「看護が何をやっているか」を見ていただきたいと考えている。

今回は予想を超える多くの演題応募があった。口演：344題、ポスター：735題、交流集会：75演題。現段階で学術集会登録者数：会員2,901名、非会員：617名、合計3,518名の登録をいただいている。

寒いので外に出る会場間の移動は注意いただきたい。来場の皆様に感謝の意を込め、明日の特別講演前の13：20から「熊本城おもてなし武将隊」の演舞を予定しているので、楽しんでいただきたい。

Ⅳ.議長指名および議事録署名人の承認

議長は定款第22条3項に従い、吉沢豊予子理事長が務める。

議事録署名人は、会場からの挙手がなかったため、江藤宏美先生（長崎大学）、二宮啓子先生（神戸市看護大学）が、議長から推薦され承認された。

Ⅴ.総務報告・理事会報告・委員会活動報告

1) 総務報告（田口敦子理事）

議案書4頁に沿って報告があった。

- ・2024年10月10日現在の会員数：正会員10,483名と名誉会員22名、賛助会員4名の10,509名。
- ・地区別正会員数は議事案参照、4頁の会員の年次推移については微増である。

2) 理事会報告（田口敦子理事）

議案書5-8頁に沿って報告があった。

- ・今年度は5回の理事会を開催した。詳細は5-8頁を参照。
- ・理事会の承認を経て6月の定時社員総会でも定款変更が認められた。これで正式に学生会員が1月から登録可能となる。ぜひ活用いただきたい。

3) 委員会活動報告

議案書13-26頁に基づき、各委員会担当理事より委員会活動報告があった。

(1)和文誌編集委員会（井上智子担当理事が欠席のため代理：吉沢豊予子理事長）

議案書13頁に沿って報告があった。

①日本看護科学会誌（電子ジャーナル）の発刊

- ・日本看護科学会誌44巻をオンラインで発刊した。
- ・2024年1月以降の投稿論文数は、222編であった（2024年10月現在）。
- ・論文公開時には会員に向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行った。
- ・表彰論文選考に参画した。

②更なる円滑な投稿に向けての取り組み

- ・投稿規程および投稿論文チェックリストを見直し、2024年5月から新しい投稿規程を適用した。

(2) 英文誌編集委員会（グレッグ美鈴理事）

議案書13-14頁に沿って報告があった。

①Japan Journal of Nursing Science の発行

- ・Japan Journal of Nursing Science Vol.21 をオンラインで発刊した。
- ・2024年1月以降の投稿論文数は、460編であった（2024年9月末現在）。
- ・表彰論文選考に参画した。
- ・2023年のImpact Factor は、1.7であった（2024年6月発表による）。

②迅速査読

2020年から迅速査読の受付を開始。2023年44編・2024年9月末で30編の投稿があった。

③発刊20周年記念事業（継続）

2023年はJJNS 創刊20周年にあたり、制作したバッジをEAFONS 2024などで配布した。

④JJNS セミナーの開催

2023年JJNS セミナーのサブタイトル：Social media to promote author's own paper をオンデマンドで開催した（2023年12月4日～2024年1月31日）。受講者数は、361名であった。

2024年JJNS セミナーのサブタイトル：The Challenges of International Collaborative Researchをオンデマンドで開催する（2024年12月中旬～2025年1月末）。

⑤学術集会における委員会企画：交流集会、投稿コンサルテーション

- ・第44回学術集会において、交流集会「英語論文の出版に向けて：苦労と喜びをシェアするグループワーク」を開催予定。明日の午前中は、英文投稿コンサルテーションを実施する予定。

(3) 表彰論文選考委員会（有森直子理事）

議案書14-15頁に沿って報告があった。

議案書10頁にある15名の委員で活動している。役割は以下の3つである。

①表彰論文の選考

- ・表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文20編（和文10編・英文10編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文8編（和文2編 英文6編）を審査リストとして作成した。
- ・全代議員、役員342名に採点依頼。225件の評価点集計を行った：回収率約65%(225/342)。本年度の優秀賞1編：千葉真希氏、奨励賞2編：青盛真紀氏、薬師寺佳奈子氏が選ばれた。

②他組織からの表彰候補者の推薦

- ・日本学術振興会賞（第21回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、1名を推薦した。

・第20回ヘルシー・ソサエティ賞の推薦依頼に対し「医療・看護・介護従事者部門」で適格者を選考し、1名を推薦。森山美知子氏（広島大学）が受賞した。

③学術集会演題表彰の実施

第44回学術集会において演題表彰を実施する。

賞は「優秀演題口頭発表賞」、「若手優秀演題口頭発表賞」、「優秀演題ポスター発表賞」で、明日の発表の様子を加味して最終選考を行う。明日の9時から「優秀演題口頭発表賞」、「若手優秀演題口頭発表賞」候補の発表があるので多くの皆様にご参加いただきたい。表彰式は行わず、学術集会2日目に受賞者に賞状と記念品を渡しHP掲載用の写真撮影を行う予定。

(4) 研究・学術推進委員会（吉永尚紀理事）

議案書15頁に沿って報告があった。

① 科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクト

・今年度は2名を採択。前年度の採択者を含め、3名に対して支援：専門家からのレビューの仲介等の支援を行い、基盤研究Aや学術変革領域研究Aの申請が行われた。

② JANS セミナーの企画・開催

・第24回JANSセミナー「変数選択の考え方を知ろう！因果推論のすすめ」をライブ配信とオンデマンド配信にて開催。申込者はライブ配信：591名、オンデマンド配信：464名。

③第44学術集会での交流集会の企画

・第44回学術集会においてCOVID-19看護研究等対策委員会との合同企画：「COVID-19看護研究等対策委員会の活動に基づく研究成果から考える研究・学術推進」の交流集会を開催予定。

④オンラインジャーナルクラブ

・2024年1月19日に予定していたが能登半島地震の影響により中止し、8月に改めて開催した。事前申し込みでは会員枠は定員に達したため、枠を広げて開催し盛況であった。

(5) 看護ケア開発・標準化委員会（佐藤和佳子理事が欠席のため、山川みやえ理事から報告）

議案書16頁に沿って報告があった。

①新規事業

看護ケアの標準化を促進するために、各学会が行っているEvidence-Based Practice（EBP）の実態や、ガイドライン作成における実態を明らかにすることを目的として、日本看護系学会協議会（以下、JANA）と連携し調査を開始。速報は明日の交流集会で発表予定でありご参加を検討いただきたい。

調査結果の活用について、当委員会がガイドライン作成に寄与できるか、JANSとしての委員会の方向性を強くする役割があると思っている。

②継続事業

1. 看護ケアガイドライン作成モデル事業

看護ケアのための高齢者排尿促進法（Prompted Voiding:PV）（診療）ガイドライン(仮称)を、Minds 作成マニュアル Ver.2020に準拠し作成を継続。電子書籍にて6月に発刊予定。

具体的作成工程については、議案書16頁参照。この知見をどう活用するか新規事業と合わせて検討していく。

2. 「尿失禁を有する高齢者の生活習慣（Lifestyle）介入」のスコーピングレビューを実施した。専門家の協力を受け解析中。
3. 診療ガイドライン関連会議等の参加
第2回医学統合統括連絡会議出席（9月6日）、学会代表枠・ガイドライン統括委員長枠（2名）
第27回ガイドライン作成に関する意見交換会参加（11月2日）

(6) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二郎理事）

議案書16-17頁に沿って報告があった。

① 委員会としての活動

- ・ JANS 若手の会HPでの情報発信、ウェブサイトの修正案を作成、随時改修を行った。
- ・ メーリングリストは約1,000名が登録。登録者が増えており、ここを通し情報を発信している。

② JANSセミナーの開催

- ・ 第23回JANSセミナー「創発的看護学研究のためのリサーチマインド・マネジメント」（オンデマンド配信）の申込み・配信、830名が視聴。現在も視聴可能である。

③ エリア検討会開催支援

- ・ JANS若手の会は、地域にエリア・コーディネーターを配置している。

本委員会では各担当が企画・運営するエリア検討会の開催支援を行い、5件の開催報告をHP上で発信、公開している。

④ エリア・コーディネーター活動の活性化

- ・ JANSエリア・コーディネーターのコミュニケーションが活性化するよう、オンラインのSlackを用いて、適宜、情報交換を実施している。

⑤ 第44回学術集会での交流集会の企画

明日、「初めての論文投稿に必要な”暗黙知”を共有しよう」を開催予定。

⑥ 日本学術会議 若手アカデミーへの参画

「学術の未来を担う人材育成分科会」、「若手主導の異分野融合研究の推進に関する分科会」に参画した。

(7) 国際活動推進委員会（池田真理理事）

議案書17-18頁に沿って報告があった。

① 委員会企画 交流集会

本学術集会2日目の9:30から交流集会「国際メンターシップ・プログラムで育つ！グローバルな看護研究者」を開催予定。

② 異文化看護データベース

アクセス数も多いため、当初の目的で更新していく方針とした。2024年は大韓民国、ブラジル、アメリカ、ミャンマー、フランス、キリスト教プロテスタント、キリスト教カトリックの更新を進め、応募者全員から原稿提出があり、委員により校正中である。

② 世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science：WANS）への協力支援

2024年8月20-21日にインドネシアにおいて開催された。WANS 学会から演題査読者依頼があり、JANS委員会を推薦した。次回のWANS は2025年12月2-4日にタイで行われる予定。

④JANS 若手研究者メンター制度企画

若手会員と海外の看護研究のエキスパート（メンター）をつなげてインターシップを推進。メンティ募集に9名の応募があり、4名のメンティを決定。初回面接が終わり、今回の交流集会で発表の予定。

(8) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

議案書18-19頁に沿って報告があった。

① JANSpedia への新用語追加の審査および英訳

- ・新用語の募集に関する広報を紙面ポスター・会員メーリングリストにて行った。
- ・申請された新用語（4用語）の審査を行い、計3用語を新しい用語としてJANSpediaに掲載した。
- ・英語サイトの作成を進めるため、既存の100用語と14の新用語の解説と定義の英語翻訳を終え、委員等の看護専門家で英語の文章チェックを行い終了した。今後、新しいHPにて公開予定である。

② 実装評価について（JANSpediaのアクセス分析など）

- ・JANSpediaの実装評価について、アクセス分析等を委員会で検討している。様々なアクセス分析が出ているが、看護系研究論文や看護系大学の授業資料等でJANSpediaの用語が活用されていることが判明している。
- ・2022年度～2024年10月までに計15用語の審査を行った。

③ 看護学学術用語追加の審査システムとJANSpediaサイトの操作の両マニュアルの作成

- ・JANSpediaのマニュアル等の作成も進めている。

④ 第30回日本看護診断学会学術集会での教育講演の開催

- ・日本看護診断学会からの依頼を受け、教育講演「看護学における学術用語の構築と普及」を行った。

(9) 社会貢献委員会（大久保暢子理事）

議案書19-20頁に沿って報告があった。

① 第44回学術集会：市民公開講座

テーマ：「快うん防災－もしもに備えて日ごろから「気持ちよく出す」ことを整えましょう－」に榊原千秋先生をお迎えし、12月8日（日）14：30～15：30開催予定。熊本県庁や看護協会から広報していただき、多くの市民に参加いただくよう務めた。

② 次世代の看護学研究者発掘・育成事業の展開

- ・中高生を対象とした「次世代研究者発掘育成プログラム」を発案し継続実施している。このプログラムは、「人の幸せにつながる科学を探索しませんか－看護学への招待－」をメインテーマとして、「次世代研究者の発掘育成プロジェクト」広報サイトを立ち上げたものである。サイト内では、中高生が視聴する「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」として看護学研究者のドキュメンタリー動画を公開しており、さらに、「看護学の研究者として生きる」のサイトページでは、6名の若手看護学研究者のインタビュー記事を公開している。
- ・このプログラムのコンテンツを題材にInstagramを立ち上げ、情報を公開した。さらに看護

学研究者の研究テーマや看護について考えていることなどをインタビュー形式で動画撮影を行い、計50本のショート動画をInstagramで発信している。

・上記のドキュメンタリー動画はYouTubeによりフルバージョン版とショートバージョン版をHPで公開中であり、2例目のドキュメンタリー動画が本年度中に完成予定である。

③ 次世代看護学研究者発掘・育成プログラム インスタライブ開催

・3月17日と10月11日の2回実施。高校生を対象に「看護学の研究者って何するの？」とし、ゲストに高校2年生2名を交え、多くの質問を受けられるインスタライブになっている。

・10月11日のインスタライブにはドキュメンタリー動画に出演の涌水理恵先生が出演、看護系大学の学生2名に動画視聴後の感想・魅力を語ってもらった。開催中は約800名がインスタライブに参加した。

(10) 広報委員会（西村ユミ副理事長）

議案書20頁に沿って報告があった。

① ウェブサイトの維持・管理・改善・リニューアル

リニューアルは徐々に進んでおり、理事長からの挨拶でもあったが、一般の方も閲覧できるような内容にしている。3月末までに構築し、4月より公開、微調整後に運用予定。次世代の看護学研究者発掘など一般の方も閲覧でき、SNSはトップページに入るよう調整中である。

② 学術集会等の広報活動

終了した学術集会をウェブサイトに掲載した。

併せて、進めている学術集会のプレスリリース等の対応も行っている。

③ 委員会成果物の公表

「看護研究の玉手箱」等を公開しているのでご覧いただきたい。

④ 広報用マスコットキャラクターの活用

・第44回学術集会でも活用するよう準備している。

⑤ デジタル広報の推進

・Facebookに理事会での理事長の言葉など度々掲載し、活用を進めている。

⑥ 戦略的広報

・専門家にコンサルテーションを受け、効果的かつ戦略的な広報を推進、検討している。

(11) 看護倫理検討委員会（鎌倉やよい理事）

議案書21頁に沿って報告があった。

① 日本看護系大学協議会から「看護学教育における倫理綱領」(案)についてパブリックコメントが求められたため検討し、JANSとして意見を提出した。

② 理事長から、既に学術集会で発表した抄録の取り下げ申請に関する委員会の見解を求められ、最終的に「取り下げることはできない」との結論を導き、回答した。

③ 来年度の講演会開催に向けて、検討を開始した。

(12) 利益相反委員会（山本則子理事）

議案書21頁に沿って報告があった。

- ・利益相反マネジメント指針・細則の見直しを行い、軽微修正後、HPに掲載した。
- ・利益相反申告システムを導入し、4月から同システム運用開始。大きなトラブルなく稼働している。

(13)研究倫理審査委員会（山本則子理事）

議案書21頁に沿って報告があった。

今期は2件の研究倫理審査を実施した。

(14)災害看護支援委員会（西村ユミ副理事長）

議案書22頁に沿って報告があった。

- ・看護系学会、および防災学術連携体等と連携し情報収集や災害時の活動について検討している。
- ・前期で調査しJJNSに投稿した論文が採択されオープンアクセスになっているため、読んでいただきたい。
- ・災害に関するセミナー、シンポジウム等の情報は、HPで公開し、必要な内容はメール配信した。
- ・今年1月の能登半島地震発生について会員に協力いただき調査を実施。調査結果を第一報としてHPに掲載した。内容の一部を世界災害看護学会のPoster with Lightning Talk で報告をした。明日のJANS44の交流集会でも報告する予定。
- ・日本災害看護学会、日本看護系大学協議会、日本看護系学会協議会と能登半島地震への支援活動に関する情報交換を行い、委員会活動に活かした。

(15)若手研究者助成選考委員会（池田真理理事）

議案書22頁に沿って報告があった。

① 若手研究者が国外で開催される学術集会へ出席するための助成

- ・海外の学会について、2024年の申請は今のところはない。

② 若手研究者が海外留学するための助成

- ・2022年度から随時募集にしており、今期は4件の申請があり、委員会で審査、助成を決定した。決定者は議案書22頁に示したとおりである。帰国された方から報告をいただく予定である。

(16)研究助成選考委員会（仲上豪二郎理事）

議案書23頁に沿って報告があった。

- ・規則に間接経費（オーバーヘッド）を免除するための文言を見える形で公開した。
- ・明日の第5会場で10：40～と15：40～の研究助成セッションにて研究助成された6名が発表するので参加いただきたい。
- ・2024年度は、正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成は11名、正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成は指定4名に助成金を支給している。
- ・現在、今年度分の応募（助成金支給は2025年度）を審査中。正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成には32件、正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成は16件の応募があった。いずれも過去3年間で一番応

募が多かった。

(17)会則等委員会（鎌倉やよい理事）

議案書23-24頁に沿って報告があった。

- ① 学生会員の新設に伴う規程類の改正内容の検討
 - ・規則関連と定款変更に関する内容を委員会で検討し理事会に最終案を提出した。
- ② 学会総会に関する改正内容の検討
 - ・本日の議案となっているが、主に定款変更となるため内容を委員会で検討し事務所と協力し理事会に最終案を提出した。
- ③ 学生会員の新設に伴う下位規程等の見直しの検討
 - ・学生会員の設置は会員資格や論文投稿など多くの規則に関係してくるため、事務所での案を確認し理事会で報告した。

(18)総務委員会（田口敦子理事）

議案書24頁に沿って報告があった。

- ① 入会審査、会員管理の実施
 - ・2024年の入会審査数は、762名であった（2024年10月現在）。
- ② 学生会員の創設
 - ・委員会で草案を作成し理事会に提出した。
- ③ 学会事務所の運営
 - ・例年通りではあるが、パートスタッフが2024年3月末で定年退職するにあたり、常勤職員を1名採用し、現在常勤職員6名の体制となっている。

(19) COVID-19看護研究等対策委員会（吉永尚紀理事）

議案書24-25頁に沿って報告があった。

本委員会は、2020年に理事会承認により設置されたが、今期をもって活動終了予定である。

- ① 第1回・第2回調査で取得したデータ（自由回答の結果を除く）の寄託・公開についての日本看護系学会協議会（JANA）社員学会への案内メール配信を完了した。
 - ・2020年および2022年に会員を対象とした調査を行い、得られたデータを二次利用できる形でオープンソース化して公開している。理事会の承認を得て日本看護系学会協議会（JANA）事務局から社員学会へのメール配信を行った。
- ② 第1回・第2回調査で取得したデータにもとづく分析・論文投稿状況
 - ・委員会メンバーが行った分析結果を含め、今期は新たに3論文が現在、早期公開になっている。前期も含め合計11本の論文が掲載されている。論文内容は資料を参照のこと。
- ③ JANS44@熊本での交流集会企画
 - ・これまでの活動内容や成果を取りまとめ、交流集会で報告を行う予定である。
- ④ 一連の委員会活動・成果のまとめ
 - ・学会だけでなく、学術誌等の記録に残るような形で成果をまとめる準備を現在進めている。

(20)選挙管理委員会（武村雪絵委員長・田口敦子理事）

議案書25頁に沿って報告があった。

2025年選出理事候補者選挙準備

・理事選挙に関する公示文書、投票要領、選挙人名簿と被選挙人名簿の作成、今後のスケジュール等について確認を行った。郵便料金値上げのため、郵送資料についてデジタルでの実施など見直しを行っている。

(21)他機関との連携活動

①日本看護系学会協議会（JANA）（西村ユミ副理事長）

議案書25頁に沿って報告があった。

- ・JANAとの意見交換会へ出席した。
- ・JANAから提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。
- ・医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、調査委員を推薦した。2016年度から56名の会員を推薦してきた。

②看護系学会等社会保険連合（看保連）（大久保暢子理事）

議案書26頁に沿って報告があった。

- ・2024年度研究助成推薦について、本会からの承認希望を募り1名の応募に対し委員会で審査し承認した。
- ・看保連理事として、各会議並びに理事会に出席し、看保連20周年事業の企画をおこなった。

③日本学術会議（西村ユミ副理事長）

議案書26頁に沿って報告があった。

- ・日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。
- ・日本学術会議公開シンポジウムの後援となり、会員に開催情報を提供した。

④その他の機関（西村ユミ副理事長）

議案書26頁に沿って報告があった。

医療事故調査・支援センターからのお知らせ、必要な内容を会員にメール等で報告した。

【質疑】なし

V. 審議事項

第1号議案「2025年度事業計画（案）の承認」について

議案書27-32頁に基づき、各担当理事より以下の報告があった。

(1)学術集会（田口敦子理事）

- ・第45回日本看護科学学会学術集会準備
第45回学術集会会長：有森 直子（新潟大学）
日程：2025年12月6日（土）・12月7日（日）
場所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
- ・第46回日本看護科学学会学術集会開催
第46回学術集会会長：西村ユミ（東京都立大学）

日程：2026年12月12日（土）・12月13日（日）

場所：東京国際フォーラム

- ・第47回日本看護科学学会学術集会準備
現在準備中

(2) 和文誌編集委員会（井上智子理事欠席のため代理：吉沢豊予子理事長より説明）

議案書27頁に沿って説明があった。

- ・日本看護科学会誌第45巻を発行する。
- ・必要であれば投稿規程、査読ガイドライン等の改定を行う。
- ・学会誌への投稿・掲載の推移を公開し、編集委員・査読者の活動を支援する。

(3) 英文誌編集委員会（グレッグ美鈴理事）

議案書27頁に沿って説明があった。

- ・Japan Journal of Nursing Science Vol.22を発行する。
- ・JANS 関連行事にてプロモーション活動を行う。
- ・JJNS セミナー2025を開催する。
- ・質の高い論文の掲載のために、査読システムを整備する。

(4) 表彰論文選考委員会（有森直子理事）

議案書27頁に沿って説明があった。

- ・表彰論文の選考および演題表彰を実施する。
- ・他機関からの表彰の推薦依頼に関する候補者の推薦を行う。

(5) 研究・学術推進委員会（吉永尚紀理事）

議案書28頁に沿って説明があった。

- ・大型研究費の獲得支援活動やオンラインジャーナルクラブ、セミナー・交流集会の企画を引き続き継続して開催する予定。
- ・COVID-19看護研究等対策委員会が企画し寄託したデータの問い合わせ対応など、引き継いで対応する。

(6) 看護ケア開発・標準化委員会（佐藤和佳子理事・山川みやえ理事）

議案書28頁に沿って説明があった。

- ・JANAと連携しながら看護ケア開発・標準化のための看護ケアガイドラインの現状を踏まえて、アクションプラン策定していきたい。各学会のガイドライン作成・普及に対するニーズを整理し、当委員会が提供すべき支援内容を明確化する。必要に応じてJANAと連携して策定する。
- ・JANAおよび各専門学会との連携を強め、どのような課題があったか、今後分析し、JANAと共有しながら共同プロジェクトを必要に応じて進めていきたい。
- ・アクションプランに基づくガイドライン作成プロセスへの支援策を検討していきたい。本委員会が具体的に機能する可能性について検討する。

- ・継続している事業の看護ケアガイドラインの6月発刊を目指しているため、引き続き作業をする。

(7) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二郎理事）

議案書28-29頁に沿って説明があった。

- ・エリア・コーディネーターの活動を推進していく。1月より始まる学生会員の増加およびJANS活動への参画を促すための方法を検討する。
- ・新しい試みとして、若手研究者向けの研究方法をテーマとし、短時間の動画をシリーズで企画・開催したい。

(8) 国際活動推進委員会（池田真理理事）

議案書29頁に沿って説明があった。

- ・国際学会での研究発表の増加施策としてセミナー等の企画を行う。
- ・若手研究者助成選考委員会と協働で若手研究者の支援を実施する。
- ・「異文化看護データベース」更新の継続。
- ・海外の研究者および学術団体と交流するための活動を行うなかで、今期からのメンターシッププログラムなどを推進し、内容についても会員へ発信する。
- ・世界看護科学学会（WANS）の会員学会として、WANS学術集会の会員への周知、および運営などへの協力を行う。

(9) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

議案書29頁に沿って説明があった。

- ・JANSpediaに掲載する新しい看護学学術用語の随時募集と審査のシステムの課題を明確にし、実装の促進と評価を継続する。
- ・既存の100の用語のブラッシュアップを目的とした募集と審査を行い、更新を行う。
- ・英語版JANSpediaを海外に発信し、学会発表や広報を通じてグローバル化を促進し、その実装評価を行っていく。

(10) 社会貢献・広報委員会あるいは、広報・社会貢献委員会（仮称）（大久保暢子理事）

議案書29-30頁に沿って説明があった。

今後、社会貢献委員会と広報委員会は、合同の委員会として統合を検討中のため仮称としている。

- ・新設HPの管理を行い、HPの戦略的な広報を展開し、広報活動としての実装評価を行う。
- ・学術集会に関する広報活動を行う。
- ・各委員会が担当するサイトについての管理を行い、広報を行うことで、委員会の活動内容を会員や社会に周知する。
- ・第45回学術集会にて「市民公開講座」を開催すると共に、市民公開講座のアーカイブ化を行い、会員への情報提供を可能にする。
- ・次世代看護学研究者発掘・育成プログラムのサイト運営を行い、それを基に交流会を開催することで、看護学研究者となる次世代に対する社会貢献事業の実装と評価を行う。
- ・Facebook やYouTube、Instagram を電子的広報の場として活用し、社会的な広報に努める。

- ・学会のマスコットキャラクター（ジャンとスウ）を活用し運営を行っていく。
- ・WANSに関連した広報について検討し広報活動に努めていく。

(11) 看護倫理検討委員会（鎌倉やよい理事）

議案書30頁に沿って説明があった。

- ① 「倫理的課題のある社会事象」に対して情報収集し、必要時に学会としての対応案の検討と社会に向けた見解の発信を行う。
- ② 啓発活動を目的として、講演会を開催する。

(12) 利益相反委員会（山本則子理事）

(13) 研究倫理審査委員会（山本則子理事）

議案書30頁に沿って両方の委員会とも一緒に説明があった。

- ・議案書のどおりであり、通常業務、会員サービスに努めたい。

(14) 災害看護支援委員会（西村ユミ副理事長）

議案書30-31頁に沿って説明があった。

- ・災害に関するセミナー、シンポジウム、講演会などに参加し情報収集、必要な場合は会員へ情報提供を行う。
- ・研究の実施等に影響が及ぶ災害が起こった際、本年度作成した、会員を対象とした「災害に伴う研究活動への影響に関する調査」を実施する。調査結果は会員と共有し、対応が必要な課題について支援策を検討する。防災学術連携団体等との連携ができるよう体制を整える。調査結果は、論文として広く周知すると共に交流集会等を企画・運営する。

(15) 若手研究者・研究助成選考委員会（仮称）（池田真理理事・仲上豪二郎理事）

若手研究者助成選考委員会と研究助成選考委員会は統合する予定である。

(1) 若手研究者助成選考委員会（池田真理理事）

議案書31頁に沿って説明があった。

- ・若手研究者においては年度ごとの募集と実施、随時応募を受付し、都度、選考委員会を実施。
- ・今後、活発な応募を図るため、前年度助成に関する報告書の確認、学術集会での発表、英文誌への投稿の推進など評価にも注力していく。

(2) 研究助成選考委員会（仲上豪二郎理事）

議案書31頁に沿って説明があった。

- ・過去3年間の実績もあり、成果が出てきていることを感じる。今後は確実に論文や出版までたどり着けているか評価していきたい。
- ・2026年度の募集も予定どおり実施する。

(16) 会則等委員会（鎌倉やよい理事）

議案書32頁に沿って説明があった。

- ① 理事長の依頼に基づく定款改正の検討

- ・必要時は定款改正も検討する。
- ・現行の規程、細則、申し合わせ等の整合性をとるため、内容の確認を継続して行う。

(17) 総務委員会（田口敦子理事）

議案書32頁に沿って説明があった。

- ・引き続き入会審査や会員管理を実施する。
- ・学生会員の新設および入会資格基準の拡大に基づき、スムーズな運用を心掛けていく。

(18) 選挙管理委員会（田口敦子理事）

議案書32頁に沿って説明があった。

- ・2025年選出理事候補者名簿を理事会に提出する。

(19) 他機関との連携（西村ユミ副理事長／大久保暢子理事）

議案書32頁に沿って報告があった。

下記の各機関と連携し、依頼事項に対応する。

- ① 日本看護系学会協議会
- ② 看護系学会等社会保険連合（看保連）
- ③ 日本学術会議
- ④ その他の機関

【質疑応答・意見】

議長は、意見や質問を促したが質問等なく、「2025年度事業計画（案）」は賛成多数で承認された。

第2号議案「2025年度収支予算（案）の承認」について

会計担当の萱間真美理事より議案書34-35頁に沿って説明があった。

当日、別紙資料の配布があったが内容や数字に変更なし。（色別にわかりやすく表示）

- ・2025年度の正会員受取会費は会員数10,000人、新入会・再入会800人、資格喪失者700人とし、10,100名分で計上し1億100万円の収入としている。公益社団法人会計基準の会費収入に関する定めから本学会では、公益目的事業に50%法人会計に50%に振り分けており、公益目的事業と法人会計に5千50万円ずつを予算として計上している。
- ・その他の経常収益では、学術集会参加費の収益が大きく5千万円程度、学生会員の受取会費や学会誌、著作権料、セミナー収益等で115,429,000円が公益目的事業の収益合計となる。また、収益事業等の広告販売にある6,831,000円は学術集会の広告収入となっており、法人会計では5千50万円以外の収入は、受取利息2,000円のみでこれらを合わせて経常収益合計は172,762,000円を見込んでいる。
- ・公益目的事業の支出は、経常費用計に示した185,655,000円で、公益目的事業の経常収益計から差し引くと70,226,000円の赤字となる。公益法人会計基準では公益目的事業は収支相償が義務付けられており、赤字計上は通常であるが、7千万円あまりの赤字幅は大きい。
- ・収益事業等は、6,831,000円の中から2,210,639円を支出し、4,620,361円の黒字となった。法人会計

は、50,502,000円から28,420,116円を支出予定で22,081,884円の黒字予定である。これらを全て合わせ、当期経常増減額は43,523,755円の赤字予算となっており、これが2025年度の予算となる。

・続いて配布資料のグラフと表を参照に説明。一般正味財産の増減について、これは決算時の数字で予算時での説明はしていないが、今後の財務状況も見て検討いただきたく資料を用意した。JANSでは一般正味財産の中に72,926,624円の基金があり、これは使用することができない。表ではこの基金を除いた一般正味財産の金額と公益目的事業会計の総額を年度ごとに示しグラフとした。推移をみると、2016年度は4千500万円程であった金額が増え2021年度は133,848,758円でピークとなっている。この頃はコロナ禍で会員数も増加していたため一般正味財産が増えている。（備考にあるがこの時期に）3千万円を若手研究者助成資金、2022年度に3千万円を研究助成資金に繰入れている。公益社団法人は公益目的事業の支出総額以上の内部留保は認められず、コロナ禍で公益目的事業の支出金額も多くなかったため、内部留保が多く計上されたことで助成資金に繰り入れた経緯があり、この資金は現在も取り崩して助成金に使用されている。公益目的事業の予算は全額使い切るわけではないので2016年度～2023年度までの執行率は（表の対予算執行率参照）、平均89%程度で、2024年度は一般正味財産88,316,782円の見込みである。2025年度も89%の執行率で試算すると、67,713,985円となる見込みであるが、公益目的事業が増えると一般正味財産は減ることになる。

・公益目的事業会計はコロナ禍以降、活発に行っていることが金額からもわかるが、今後、持続可能な学会運営を考えるにあたり、会員数見込みを示した資料で説明するが、正会員数は、2015年度から2016年度は400人程増えたが、2024年度は115人、2025年度は116人程度と予想する。2025年度からは学生会員が始まるが会費は3,000円である。学生会員は若手を育て会員として入会を促す目的であるため、目先の利益ではなく学会に魅力を感じる人を増やす主旨で始める。今後は人口減少で学会の会員数は、以前のように右肩上がりに増えることはなく、会費と学術集会の収入に依存する従来の体質では適切に保つことが難しくなるため、今後は収益を目的とした事業も検討しているのが現状である。2025年度の予算案は4,300万円赤字で計上しているが、これは今後、何の問題もなく運営していくということではなく、こうした現状を踏まえ、様々な支出も含めて考えたうえで予算を示している。

【質疑応答・意見】

・財務状況は厳しいと思っている。今のところ1～2年は大丈夫ではあるが、現状とこれらのことを鑑みて提示させていただいた（吉沢理事長）。

議長は、意見や質問を促したが質問等なく、「2025年度予算（案）」は賛成多数で承認された。

第3号議案 定款の変更（学会総会について）

・今年の3月に正会員を対象に学会総会アンケートを行ったが、その際の意見や司法書士の見解、理事会での議論を経て、学会総会は広く会員からの意見や質問、提案等を聞く場であることを明瞭にすることや、法令で定められている社員総会と識別するため、定款に規定されている学会総会の権限等の記載の見直しと議決権の削除を提案する。

田口理事より議案書39頁に沿って説明があった。

・学会総会について正会員を対象に3月にアンケートを実施し、回収人数は403名であった。学会総会の開催方法については、オンラインや特設ページでの開催を希望する方も多かった。また、JANSの

法定要件を満たす議決機関は「社員総会」であり、「学会総会」の議決は必要とされていない。しかし、現定款では学会総会の権限は「本会運営上の重要事項について、理事会に対し意見を具申する。」（定款第41条）となっており、司法書士から「学会総会が議決機関であるかのようにになっているため、社員総会との違いを明瞭にすることが好ましい」との見解も得ている。併せてこれまでの学会総会で理事会に意見を具申し議決となったこともなく、今回、条項を見直し、定款の変更を提案したい。

・39-41頁の新旧対照表に沿って具体的な説明があった。

説明に先立ち、学会総会は継続して開催するが、権限や議決、出席の定数をなくし、誰でも参加できる方向性で検討している旨の説明があった。

各条項については新旧対照表を参照のこと。

なお、他の規定への影響があるため、条項の削除に伴い、条項の繰り上げや繰り下げはしない。

また、欄外に変更案の考えを記載しているため、参照いただきたいとの説明があった。

【質疑応答・意見】

・これまでの社員総会が法的な議決の場になることは変わりなく、一方で学会総会の名前は残すが、こちらは誰でも意見交換ができる場として残したい。そのための定款変更を提案させていただいた。（吉沢理事長）。

議長は、意見や質問を促したが質問等はなかった。その後、投票により諾否を問うた結果、社員総数340名のうち、「承認する」は会場出席者47名、欠席者で委任状・議決権行使は249名、合計296名であった。これは社員総数の3分の2以上にあたるため、3号議案の「学会総会に関する定款の変更」は承認された。

なお、今回の定款変更に伴う学会総会の開催は、来年の学会総会から適応となる。

第4号議案 第47回学術集会会長の承認

吉沢議長より、議案書42頁に沿って説明があった。

・2027年度の第47回学術集会会長候補者として、北海道大学の田高悦子先生を推薦したい。
北海道での開催は、2010年であり、開催から17年経過しての開催となる。

議長は、意見や質問を促したが特に無く、「第47回学術集会会長」は賛成多数で承認された。

また、議長より、その他の質問等の声かけに対し、以下の質問があった。

- ・赤字予算の工夫、ありがとうございます。先程、収益を考えていくとのことだったが、現在どのような収益を上げることを計画されているか教えていただきたい。（浅野社員）
- ・まずは賛助会員を増やすことを努力しようと考えている。現在、社名の掲載だけであるが、今後は特典などをつけて様々な会社や団体に声かけの努力を考えている。また、学術集会のランチョンセミナーが他学会より安価であることが分ったため、金額を見直すなどして収益を増やせる余地があると考えている。（田口理事）
- ・企業は厳しい状況だと理解している。よいことかどうかは不明だが、医師の参加が多い学会では、

有料で資格を取る研修等を実施している。会員のニーズがある事で自分に力がついたと思えるものを考えていく方法もあるのではないか。（浅野社員）

・収益目的の事業としてセミナー等があるが、日本看護科学学会では、若手対象のセミナーは、無料もしくは安価で参加できることを考えている。若手を育てることが重点課題であるため、若手対象のセミナーに関しては有料とせず、その他のセミナーや研修等での収入増を考え進めていきたい。（吉沢理事長）

VI. 閉会

司会の西村ユミ副理事長より、後から参加した人数を含め、有効委任状・議決権行使を含め出席者数は296名であることが報告され、その後、閉会が告げられた。

この議事録が正確であることを証するため、議長および議事録署名人により以上の議事を認め、記名押印する。

2025年2月 3日

議長 吉沢 豊予子 ㊟

議事録署名人 江藤 宏美 ㊟

議事録署名人 二宮 啓子 ㊟